

# 甲田の裾

KŌDA NO SUSO



弥広神社の紅葉

2020

4号

通巻703号

松丘保養園の機関誌

# 令和二年度 物故者慰霊祭

令和2年11月11日



令和2年度の物故者慰霊祭は、新型コロナウイルス感染症対策を万全に、出席者の間隔を充分にあけて規模を縮小し執り行われました。

---

## 甲田の裾 令和2年4号 通巻703号 目次

---

自治会会長就任にあたって		
…………… 入園者自治会 会長 佐藤 勝 ……	2	
令和2年度物故者慰霊祭 祭詞		
…………… 松丘保養園 園長 横山 慎 ……	6	
令和2年度物故者慰霊祭 祭詞		
…………… 入園者自治会 会長 佐藤 勝 ……	10	
新任挨拶 ………………	副臨床検査技師長 佐藤 恵美子 ……	13
感染対策研修講演録 新型コロナウイルス対策について		
弘前大学臨床検査医学 同附属病院感染制御センター		
…………… 副センター長 齋藤 紀先 ……	15	
「歌集 青葉かがやく」(根岸 章 著) を読んで		
…………… 山本 康正 ……	21	
俳句・川柳 ………………	木村 伯龍 ……	28
社会交流会館だより ………………	社会交流会館 学芸員 澤田 大介 ……	29
ニューフェイス紹介・人事異動 ………………		34
自治会日誌・編集後記 ………………		35

表紙写真：「弥広神社の紅葉」社会交流会館 学芸員 澤田大介  
写真提供：福祉室

## 自治会会長就任にあたって

今年の春先から猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染症は、日本中、この青森県でも多くの感染者が出てしまいました。その為、当園においても、普段の生活スタイルに大きな変化をもたらしました。私共が最も楽しみにしていた観桜懇親会を始め、納涼祭などの主要行事の全てが中止という事になってしまい、園内全体が閑散となってしまいました。また園内外方達との交流の場となっていた社会交流会館も閉館せざるを得なくなり、園外の方々との交流の場も失われてしまいました。再開されたとき、果たして今まで通りの、交流が保たれるのか、いささか心配な面もあります。その為には、これまでに以上のピーアールの場が必要になってくるものと思われれます。

入園者自治会 会長 佐藤 勝

そんなコロナ禍の中の九月、令和二年度自治会役員の定期改選選挙が行われました。選挙管理委員の方々には健康面も考慮しながら選挙事務所を開設し選挙事務に携わって頂き、そうしたご努力のお陰で、何とか無事に終える事ができました。

しかし、選挙結果放送を聞き園内の皆様は驚いたようです。当選者が、相次いで辞退され受諾者が私一人だけの放送内容であったからです。

数日後、道端で出会った、ある女性からは、「あんたも、大変だなあー」と一言。私のことを心配していたいただきました。またある方からは、「お前も、大変だけど頑張ってくれ」と何より力強い励ましの言葉をいただきました。

その言葉に頷きながらも、これから一人でどのよ

うな運営をしていけば良いのか、色々と悩み、どうしても、相談相手が必要になると思いました。前会長の石川勝夫氏と、叶順次前経理委員の両名に相談申しあげたところ、両名からも、陰ながら私の力になりたいと思つていことが分かりました。

二人からは「自治会をなくするという、最悪の事態は絶対避けなければならぬ」との力強い意志を感じ取れたのです。それでは、自分が会長として頑張つて行くから、お二方には非常任執行委員として、この私をサポートしていただきたくとお願ひしました所、快諾が得られ、誠に心強かつた事は言うまでもありません。

それでは私の経歴を申し上げさせていただきます。

昭和三十八年四月に入所しました。私の発病は十三歳の秋頃でしたので、十五歳での入所でした。秋田県横手市内にある病院で、ハンセン病の宣告を受け、私はお袋から、知らされました。

その事を知つた小学校から、卒業式の帰りに、お

袋に渡された手紙には、私の中学校進学を断る内容が書かれていたようです。その情報は村人にも伝わり、嫌われることになってしまいました。その為、行き場を失つてしまった私は家に閉じこもり、外へ出るのも恐くなり、辺りが暗くなるのを待つてから、村人が居ないことを確認した上で、漸く外の空気を吸うことが出来ました。そんな毎日でした。食も細くなり、痩せ細つた身体で入所したので、園内の方々は、「可哀想だなあ」と、思つていたことを後程教えてくれたことがありました。

そんな身体でしたが、私は私なりに、当時、園内にあつた中学校の分校に仲間と一緒に通うことが出来ると思つただけで、楽しみが湧いてきたものです。しかし、通い始めて数ヶ月たつた頃から、高熱を出すようになってしまいました。その為、勉強どころではなくなつてしまいました。

本病が騒ぎ、「熱こぶ」が始め、顔が腫れ上がり別人の様になり、さらに「神経痛」。その為、直ぐに病棟へ直行し後は殆ど病棟暮らしの毎日でした。その上炊きたてのご飯のにおいが嫌でご飯も食

べることが出来ず、吐き気さえ感じるようになってしまいい、毎日点滴で、栄養を補っていました。いつの間にか、病棟暮らしも三年を過ぎていました。仲間間は、岡山の新良田高校へ嬉々とした笑顔で巣立って行く。この時の悔しさは、未だに忘れることはありません。いつの間にか、私も二十歳になっていました。その間の治療のかいあって、本病も落ち着き、退室することになりました。と言っても強引な退室願いでした。児童寮時期からの入室でしたが、一般寮へ居室移動する歳になっていました。

数年後、健康が回復した為、郷土の大先輩から「お前も、そろそろ働いた方が良いではないか」と言われ、働き始めました。盲人会世話係、包帯集め、薬配係を務めました。薬配達の時、園内の皆様は、「勝君、大丈夫かなあ。ろくに勉強をしてないから、人の名前、ちゃんと読めるだろうか」と心配していたようです。

寮長、文化部(後の厚生部)書記、評議員への立候補を促され、数年務めました。この時の経験が良い勉強になりました。公園係、花壇係、清掃係と務め、

平成十四年にとうとう自治会へと誘われました。断ろうにも断れる状態ではありませんでした。そして今日に至っています。私が一番決意した理由は、やはり子供の頃入所でしたので、今日こうして居られるのも、園内の皆様から守り育てられてきたお陰です。今度は、私が皆様の為に、恩返ししていかねればとの思いに至りました。しかし、その中の多くの方々は今日の豊かさを知ることなく、もう旅立っていかれました。今、健在で居られる方々も、皆高齢化と、不自由度の増進に伴い、介護の手が必要になっていきます。そのお姿を、目にする度、心が痛みます。

今現在令和二年十一月九日の、入所者数ですが、五十八名、平均年齢は八十七歳を超えて、不自由度が益々進んでいます。

ハンセン病療養所の職員定員削減問題についても、今年はコロナ感染症拡大の中で、支部長会議が中止され全療協としても十分な運動が出来ませんでした。高齢化の進んだ入園者には一人にかかる看護介護に必要な職員は以前より多く必要となります。

この問題に関して全療協は、「国の財政事情の悪化の如何を問わず、ハンセン病患者の強制隔離政策による被害回復の施策は、すべてに優先されるべきだ」と一貫して主張してきました。昨年十一月改正ハンセン病基本法が衆参両院の全会一致で可決され、基本法11条を『医師・看護師及び介護員の確保等：医療及び介護に関する体制の整備及び充実』と改正して頂きました。この法改正によって、療養所の職員確保・充実について政府の責任は一層大きくなったと思います。

今後、全療協はハンセン病対策議員懇談会をはじめ弁護団のご協力をいただきながら、政府に対し現状に即して従前の枠組みの上に追加的な枠組みを合意し、定員合理化計画から実質除外して頂く等の適切な対応を実現するよう求めていかなければならぬ」と主張しております。

また、副園長不在という大問題も、喫緊の課題として取り組んでいかなければなりません。「将来構想の早期実現」に向けても此処が正念場として捉え、将来の道筋を見える形にしていかなければなりません

ん。いずれにしても、山積する諸問題の解決に向けても、施設・自治会が一体となって取り組み、邁進して行かなければなりません。

その為には、関係各位のご支援と、ご協力を賜りながら、この難局を乗り越えていかなければなりません。微力な私ですが、誠心誠意向こう一年頑張り抜いて参りますので、皆さまのご支援の程よろしくお願い申し上げます。

以上自治会会長としての就任の挨拶とさせていただきます。

# 物故者慰霊祭 祭詞

国立療養所松丘保養園 園長 横山 慎

本日ここに令和二年度 松丘保養園物故者慰霊祭を執り行うに当たり、三村申吾青森県知事、青森市長代理・館山新福祉部長をお迎えし、入所者の皆様、職員、関係者一同、松丘保養園で亡くなられた方々の御霊に哀悼の誠をお捧げするため、ここにご参集いただきいております。

昨年十一月の慰霊祭から今日までの間にお二人の入所者をご逝去されました。昨年十二月にはMMさんが、今年一月にはNKさんをご逝去されております。

これによりまして明治四十二年に現在の松丘保養園が北部保養院として創立されてから一一年の間に亡くなられた入所者は一、六九二名、未感染児童十五名、生まれ来ることなく亡くなら

れた子供さん二名となりました。亡くなられた一、六九二名のうち、ご遺族に引きとられたかた、自宅で亡くなられたかた、宗教関係の改葬者を除いた一、一五五柱の御霊が園内の納骨堂に合祀されております。お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族、ご療友の皆様には心からお悔やみを申し上げます。

ここでMMさんとNKさんについてすこしふれさせていただきます。

MMさんはお亡くなりになられる一年ほど前に奥様のMKさんを突然亡くされてからは失意の日々を過ごされておりました。

MMさんご自身も消化器系のご病気を患って



おられました。ご自身のご病気が明らかとなった頃、奥様も手術後のお体で体調が十分に回復されていない状況でした。ご自身の治療のため手術後の奥様のお世話ができなくなることをお気遣いになり、ご自身は入院や手術が必要となる治療を先延ばししておられたようです。そのような中、奥様が突然ご逝去されました。

奥様をご逝去された直後のMMさんは奥様を失ったことによる喪失感も大きく、ご自身のご病気については積極的な治療を受けられずに過ごされておられました。

しかし次第に病状が進行する中、奥様の一周忌を済ませるまではなんとしても頑張らねばならないとおっしゃって少しづつ治療を受け入れていただけるようになりました。

生きる目標ができ頑張られていたMMさんでしたが奥様の追善法要の日の朝に突然発熱を来したし結果的には法要にはご参列できなくなってしまうのです。大切な目標がかなわず、どれほどご無念であったことでしょうか。

その後、MMさんはご自身の治療に対しては以前より前向きにご検討していただけるようになりましたが病状の進行とともに多くのものが食べられなくなってきました。

そのような状況の中、秋田県のご出身のMMさんは「最後にハタハタを食べたい、先生、一口でもいいからハタハタを食べたい」と毎日のように申されておりました。

昨年はハタハタが不漁でなかなか手に入らない状況が続いておりましたが、青森市内にお住まいのご親戚の方がやっと手に入れたハタハタを調理して、いよいよ明日MMさんのところへ届けてくださると、ご連絡をいただいた日の翌朝にMMさんはお亡くなりになりました。

一口でもハタハタを、懐かしい故郷の味を食べていただきたかったです。がもう少しのところではないませんでした。

痛恨の極み、残念でなりません。

享年八十五歳、在園年数六十四年の生涯を閉じられました。松丘ではまだまだお若いMMさん

でしたが病に打ち勝つことはできませんでした。  
ご冥福をお祈り申し上げます。

NKさんは私が三年前に松丘保養園に赴任して来て初めてお会いしたときは、終日ベッド上で生活を余儀なくされておりました。しかし意識はしっかりされており日常の会話も普通にできておりました。

ハンセン病の後遺症により目に障害があり、視力はほとんど得られない状況でしたが聴力は達者で私がお部屋を訪ねると私の足音をすぐに察知し反射的に「あどいい」「あどいい」とご発声されておられました。最初、何が「あどいい」のかよくわかりませんでした。私がNKさんの病室を訪れる時は採血検査のために注射の針を刺されて痛い思いをすることが予想されるため反射的に「あどいい」すなわち「もうたくさんだやめてくれ」とおっしゃって拒否されているのだとわかりました。

しかし、私が「血液の検査をしてお薬で治療し

ないと良くなりませんよ」とご説明申し上げますと「うん」とうなずいて採血検査を許可して下さるのでした。そのNKさんも突然重いご病気を患い、治療の効なくご逝去されました。

享年一〇〇歳、在園年数六〇年の生涯を閉じられました。ご冥福をお祈り申し上げます。

NKさんは生前、当園の職員に対して松丘保養園に入所する以前ご実家に住まわれていた頃のお話をしてくださっております。

「部屋に閉じ込められていた。他の人と会わないようにだと思ふ。それに比べたら保養園はよいところだ」とご本人が話されていたとのことです。

ご家族や周囲にお住まいのかたに感染しないようにとお考えになり、ご家族がやむをえずとられた方策だったのではないのでしょうか。ハンセン病に対する公衆衛生上の知見もまだまだ十分でない時代でした。未知のものを恐れ遠ざけることは人間の習性なのかもしれません。ハンセン病に

限らず多くの疾病に対して差別や偏見がもたらされることは現在においても少なくありません。昨今のコロナウイルス感染症においても同じようなことが起ころうとしています。病気や障碍を持つ人々や、そのご家族を差別し排除する社会は健全な社会とはいえません。

今後このようなことが繰り返されることは二度とあつてはなりません。御霊におかれましては我々が再び誤った判断をしませぬよう天上より見守り、お導きください。

私たち松丘保養園職員一同は今後とも、ハンセン病に対する偏見や差別の解消に向け、あらゆる機会を捉え、その啓発、啓蒙に努めて参りますことを改めてここにお願い申し上げます。

また、多いときでは八〇〇名以上の入所者の方々が生活されていた松丘保養園ですが、現在の入所者は五十八名と減少し、平均年齢は八十七歳を超えられております。今後、入所者の皆様はさらに少なくなつたとしても松丘保養園を終の棲

家として安心して生涯を全うしていただけますよう全力で努めて参りますことを御霊前でお誓い申し上げます。

結びに今一度、物故者の御霊のとしえに安らかでありますことを心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族を始めご療友の皆様方の安寧と幸せを祈念し、祭詞といたします。

令和二年十一月十一日

# 物故者慰霊祭 祭詞

入園者自治会 会長 佐藤 勝

深冷の平野は落葉が風に舞い、冬が駆け足で近づいて来ております。

本日、ここに、創立以来本園に於いて病没された一六九二名、保育児童十五名、生まれることなく亡くなられた子供達二つの各霊位をお迎えし、親しく療友、職員相集い、そして本年も、三村申吾青森県知事、青森市長代理として、舘山新福祉部長をお迎えして、令和二年度物故者慰霊祭を執り行うにあたり、謹んで各御霊に慰霊の言葉をお捧げします。

思えば、皆様におかれましては、本病を得たが故に、社会から不条理な差別と偏見を受け、故郷を追われ、此処、松丘の地で、今日の礎を築いて下さいました尊い先輩諸兄姉の方々でございます。

改めて、皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

また、本園の一隅に於いて、未感染児童とさげすまれながら、短い生涯を終えざるを得なかった保育児童の皆様にとりましては、本当に悲しくもはかなく、幼い身に辛い思いを味わうだけの生涯でしかありませんでした。

しかしながら、皆様の尊い犠牲的なご生涯は、その後の医学に急速な進歩を促し、また社会情勢の好転と相俟って、関係者の理解も深まると同時に、長年に亘る皆様方より引き継がれてきた運動の成果も加わり、医療・福祉・生活・その他全般にわたって、園内の状況も大きな変化と進展を見せるようになりました。

とはいえ、未だにハンセン病に対しての知識不

足からくる、無理解な方が見受けられるのも事実であります。その為にも、講演活動などを通して、理解の輪を広げて行かねばと思っております。

松丘保養園は明治四十二年に北部保養院として開所以来、一十一年という長い年月を重ねて参りました。本年一月三〇日には「創立一一〇周年記念会」が開催され、厚生労働大臣の代理として、樋口浩久 医政局医療経営支援課長を始め、三村申吾 青森県知事、堀井敬一 秋田県副知事、ほかに、道の知事代理、また青森市長代理の方など、多くの方々がご出席下さいました。

今年の春先には、予想だにしていなかった新型コロナウイルス感染症を巡って、私どもが最も危惧していた事が起きてしまいました。

それは、新型コロナウイルス感染者に対しての誹謗中傷、さらに医療従事者やその家族に対する、容赦のない差別的言動や誹謗中傷は、度を超していると言わざるを得ません。彼らは、自らの命の危険に怯えながらも、まさに不眠不休状態で感染者に対し、治療等に専念されている、最も尊い方々

であります。

その人達に対して、精神的に追い詰めてしまうような言動は厳に慎むべきであり、このようなやり方は、嘗て、私たちハンセン病患者を官民挙げて療養所に追いやり、差別を助長させた「無らい県運動」と同じ構図と言えるのです。

また、当園に於いては、感染予防の徹底を図ったことにより、唯一の楽しみでもあった、各種行事を中止せざるを得なくなり、コロナ禍と言えど申し訳なく思っております。

さらに、地域啓発の一環としての交流の場も絶たれてしまい、悩ましい年になってしまいました。何れにせよ、一日も早くワクチン開発が進み、終息することを願うばかりであります。

四月には川西健登園長の退官に伴い、横山慎副園長が園長に昇任され、副園長が不在となつてしまいました。相変わらず、医師確保の問題は、私たちにとりまして最重要課題であります。これからもこの問題を含め、山積する諸問題について、着実な歩みを持って、活動の停滞をさせることな

く取り組んで行かなければなりません。

一方、自治会会員の減少と、高齢化や不自由度の増進により、自治会役員の選出にも困難な状況となつて参りました。その為、これから療養所の先行きはと考える時、不安は付きまといますが、ここで臆するわけには参りません。まずは、これからの最低限、今の療養生活を維持し、決して過去の歴史を風化させることなく、また後退させることなく取り組んでいかなければなりません。

その為にも、先輩諸兄姉の貴重な経験を基に、ご教示を頂きながら、諸問題の解決に向け、施設・自治会が一体となり、今後の方向付けをしつかりと見極め、尚一層の努力をしなければならぬと考えておりますので、皆様の深いご加護をお願いする次第でございます。

茲に謹んで哀悼の意を捧げ、各霊位のご平安とご冥福を心よりお祈り申し上げ、祭詞とさせていただきます。

令和二年十一月十一日

## エコだるま 冬げしき

中央センター2階

スタッフルーム前にて開催中

入園者と職員が、細断された紙を固めて作った雪だるま。一つ一つ入園者の特徴を捉えています。

「チヨコが好き！」

「カタログ見るのが好き！」

「ジョアが好き！」

手袋履いて、帽子を被り、マフラー巻いてこれから来る冬將軍に備えます。





## 新任 挨拶

副臨床検査技師長 佐藤 恵美子

はじめまして。

この度、十月一日付で独立行政法人国立病院機構八戸病院より異動になりました、佐藤恵美子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

転勤の経歴から見ると、秋田〜岩手〜仙台〜弘前〜八戸〜松丘と、半分は青森県巡りとなりました。臨床検査の学校が弘前でしたので、それも加えると、岩手県出身でありながら社会人としての人間形成は半分以上が青森県で培われたと思っております。

誰もが同じことを言うかもしれませんが、松丘保養園の第一印象は「広い！」です。初めて来たときは玄関がわかりませんでした。しかし、門までの桜並木で春の美しさを想像し、緑の多さに秋の見事な紅葉を想像することができました。園内の至る所に美しい景色があり、心和む機会が多いです。近頃はセイトカアワダチソウやススキがかわいいですね。

中庭に落ちてゐる割れたイガから覗いた栗の実や駐車場で風に舞うカエデの葉っぱを見ただけで胸キュンです。このところは気候変動のせいで季節感が変わってきているように思いますが、世界はやつぱり美しいのだと感じさせてくれます。まだまだ見ていない景色がありますので、これから目に映る四季の変化とかわいい草花との出会いに期待しています。

そして園内では、着任したばかりで右も左もわからない私に（実際、度々迷子になっています）多くの方が笑顔でお声がけくださることに驚き、入所者の方々やスタッフの皆さんの優しさに、胸が熱くなりました。松丘保養園の人の優しさ、豊かな自然、全てに感謝し、ご恩返しのもりで奉仕できるよう努めて参ります。

新型コロナウイルスの影響で日常を送ることがちよつぱり難しく感じるこの頃ですが、早く皆さんのお役に立てるよう、自分にできることを一つ一つ実行していきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。



## 新型コロナウイルス対策について

弘前大学臨床検査医学 同附属病院感染制御センター

副センター長 齋藤紀先

いつもお世話になっております。齋藤紀先です。  
今日は30分という短い時間ですので、本当に簡単な事しかお話出来ませんが、宜しくお願い致します。

実際、幸か不幸か私の勤めている病院には、まだ本物のコロナウイルス感染症の方は来ておりません。PCR検査は何人も来て、もうその度毎に今度こそ本物だろう、今度こそ本物だろうという症例も来ているのですが、PCR検査やってみると違うとなる。ただ、色々な問題がありまして、PCR検査も含めましてそのことを話していきたいと思えます。

まず新型コロナウイルスですが、昔SARSとかMERSとか流行りましたが、これもコロナウイルスなんです。コロナウイルスは一般的に風邪のウイ

ルスなんです。風邪のウイルスは何種類かあるんですがその中の代表的な風邪のウイルスの一つなんです。

その中で新型コロナウイルスのタイプがあつて今回重症化しやすくなつた。肺炎を起こしやすくなつたコロナウイルスという見方で結構です。

症状は高熱や肺炎があつたり、症状が無かつたり、においとかが味がしなかつたり、マスクミに言われている通り様々ですね。症状が全く出なかつた人も一杯いますから。

インフルエンザは高熱、頭痛、関節痛、MERSは下痢、咳。中東呼吸器症候群のMERSの方は、日本では殆ど出ていなかった。ヒトコブラクダに接触して感染と報告されました。

SARSの方はコウモリ。MERSは世界で

2500人、SARSは8000人程度です。

インフルエンザは日本の中だけで年間1000万人かかるんですね。それに比べれば、今の日本の新型コロナの感染者52000人（R2年8月14日現在）はそんなに凄く多いという訳ではないのです。インフルエンザで学級閉鎖とか聞きますがまだまだ全然少ない。

実際どのくらい亡くなっているかというところ、3%で今はもう1・6%になっています。インフルエンザも亡くなっている方はいるのですが、0・1%以下です。

潜伏期間が意外とよくわからない。症状が出ない期間が意外と長い人がいる。2〜14日間、罹っているのに症状が出ない人がいる。

例えば、弘前で学生がスペイン旅行に行つて感染して帰ってきてから4〜5人で行動、東京から青森まで車で過ごしている。相当な濃厚接触なのにならなかつた。

ところが、たった1回の飲み会だけで10人も20人もばーっと広がった。

スプレッダー、広げる人、大きく広げる人がいる

とウイルスがばーっと広まる。インフルエンザもそういう傾向があります。

広げやすい一人のスプレッダーがいると広がるけど、スプレッダーがいないと、そんなに簡単に広まるものではないという印象です。

結果的には、平均すると一人から1・4人〜2・5人ということになってしまふんですけど、どういう人がスーパースプレッダーになるのか分かっていない。

新型コロナウイルス感染症対策の難しさは、インフルエンザは発症するまでの期間が短い。そしてインフルエンザは重症化させないワクチンがあります。コロナウイルスはありません。そして伝播するスピードが遅いということがあります。

新型コロナウイルス感染症の経過です。

8割の人がかぜ症状、嗅覚味覚障害などで軽症のまままで治ります。PCR検査で陽性でも8割は軽症です。そのうち2割の人がちよつと肺炎症状が増悪して入院したりする。そしてその中の5%は人工呼吸器やECMOなどの治療を行わなければならなくなる。致命的な症状になる。

基礎疾患ごとや内服薬ごとにみた新型コロナウイルス感染症の死亡リスクですが、65歳以上、女性より男性、心血管疾患、うつ血性心不全、不整脈、COPD(肺気腫)、喫煙者などまずは基礎疾患がある人がリスクが高い。他に糖尿病、透析などやっている人もリスクが高い、重症化しやすいと思います。

そして、その致死率ですけども、日本の今はもつと下がったかもしれませんが、9027人のデータでとった致死率で見ると、圧倒的に80歳以上、70歳代が圧倒的に亡くなっている。極端な国の政策をとっているスウェーデンなんかでは70歳代以上の後期高齢者、ある程度の先進国では亡くなっているのは70歳代以上です。医療レベルの低い国は別かも知れませんが、ある程度の先進国、人工呼吸器もつけられて点滴も受けられて隔離も出来るような国では確かに70歳代以上の人。ニューヨークなんかでは若い人、60歳代以上の人も亡くなっている。実際死亡率は他のインフルエンザよりは高いだろう、という事です。

日本全国の感染者数ですが、4月に7つの都市に緊急事態宣言が出て全国に拡大して、一旦収まって来たところで、経済を開放していったら予想通り第2波が来た。8月14日で1・5倍に増えている。まあ感染者はこのように増えておりますので、GOT Oキャンペーンもやっておりますしお盆の時に移動した方もいますし、多分このまま終息していく訳がない。増えていくでしょうね、これから多分。また緊急事態宣言が出されるような気がします。

さて、検査には、何種類かあるんですが、検査すべき症例は、基本的には一時期体温が37度5分以上なんてありましたが、今は違いますね。

対象は少なくとも次のいずれかに該当する場合があります。

「息苦しき(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合」

「重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合」

「高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患(COPD)等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫

抑制剤や抗がん剤等を用いている方」

殆ど風邪の症状と同じですね。医学的には線引きが出来ない。非常に評判が悪かったんですね。だったらPCR検査してください、という感じですね。

PCR検査は今ほとんどんやってもいいと思うんですよ。PCRの検査キットが増えて来たからです。ただ3月4月5月の頃は本当に数が無かったです。だからみんなワーツとやってみようと思ってしまう。本当に接触した人に、この人は本物だと思う人に検査が出来なくなってしまう。

そういう危険性が強かった。今はそろそろ解禁してどんどんやってみてもいいんじゃないかという時期に来てるんじゃないかと思えます。

ただPCR検査の限界を知っておいて欲しいんですね。PCRというのは万能の検査ではなくて、新型コロナウイルスのPCR検査の感度はよくて約70%。一番いい時期にとつて80%と言われています。

これはどういう意味かと言うと、「10人の本当のコロナウイルス患者に検査しても3人は陰性になる可能性がある」ということです。だから一回この

人疑わしいなと検査しても7割の確率で安全になったと。3割はもしかしたらコロナかもしれない。本当だったら2回3回検査をすべきじゃないか。

ところが保健所ではそこまではやってくれてないんですね。一回陰性だと「はい大丈夫」となってますので。その辺はまだ少し問題がある。

一方、PCR検査の特異度は99・9%と言われていますが、これは「1000人に一人はコロナウイルス患者ではない人でも『陽性』が出るということ」です。

PCR検査は「陽性」と出ればほぼ100%本物と言えますが、「陰性」であった場合でも3割は見逃す可能性があるということです。

そのため、PCR検査を行うほどの「疑い例」となった場合、検査が陰性であっても、その後2週間ほどは厳重な感染管理のもと隔離（軽症であれば自宅待機）が原則必要となります。診断はPCR検査だけでなく、その人の行動歴、接触歴、症状、画像診断などを総合して診断しなければなりません。

まずは、肺炎の症状があるかないかですね。重症なものではないかどうか。それから接触歴があるかど

うか。今は接触歴不明でも陽性の人が出てきてますから、PCR陽性は勿論のこと、PCR陰性でも例えば東京に行ってきた、外国へ行って来た人には1〜2週間来ないようにすると言う厳しい措置をとらなければならぬ。働いている人がそう簡単に2週間休めません、という問題もあるんですが、学生には、弘前に必ず2週間前に戻って来ないと授業を受けさせません。2週間の待機を命じています。

消毒についてですが、お店や公共施設ではもちろん、家庭でも環境の消毒を行うことはあらゆる感染予防の対策には有効かつ重要です。食器や箸などは80度の熱湯に10分間さらすと消毒ができます。

それ以外に消毒薬を使用する場合は、アルコールか次亜塩素酸（ハイターやブリーチ）です。アルコールの適正濃度は65〜75%です。これはもともと商品がその濃度になっている場合が多いでしょう。次亜塩素酸の場合は商品を薄めて0・05%以上にして使用します。大体1リットルの水に対しキャップ1杯から1/2杯の割合になっています。

仕事や学校についてです。

発熱等の風邪の症状が見られるときは、会社や学校を休んでください。「ちよつとの風邪ぐらいで休むなんて…」という感覚は時代遅れです。仕事を休むということはある意味勇気のいることですが、それは正しい判断です。新型コロナウイルスにかかわらず、すべての感染症について言えます。無理をせず、すべての感染症について言えます。無理をせず、出勤し、周囲にうつしてしまうことのほうが余程迷惑を掛けることを理解しておいてください。発熱等の風邪症状が見られたら、毎日体温を測定して記録してください。

感染対策の心構えですが、これは私が学生向けにウェブ講演したのですが、

- ・体調が悪い時は病院に入らない
- ・飲み会は開催しない
- ・カラオケ、パチンコなど「3密」になる行動は慎む

・手指アルコール消毒は一挙一動ごとに行う感覚で

・流水、石けんによる手洗い

- ・食事の前、トイレの後、患者さんに接する前後
- ・マスクの着用
- ・遠方に出掛ける（出掛けた）際は所属長に報告する

ここからは復習です。

感染経路というのは、接触感染、飛沫感染、空気感染があります。空気感染というのは特別です。麻疹、水痘、結核などで空間を共にしただけでうつしてしまうような大変面倒くさい感染症です。コロナウイルスは接触と飛沫感染です。なのでマスクを必要とします。マスクはくしゃみなどする人が必要とするもので、自分が全く症状がなければしなくてもいいんですが、全く無症状の人がうつしている可能性もあるので予防の為に必要です。要は接触なんです。マスクをお互いしていれば、飛沫はそんなに飛んでいるとは思えない。どこでうつるかというところ、やっぱり手からなんですよ。手洗い、アルコール消毒が大事なんです。とにかく重要なのは、接触感染を防ぐための手洗いです。せっかくなのでマスクをしていても、手にウイルスが付着していた場合、その手で

顔、目、鼻、口を触ったりすると接触感染が生じます。とにかく一挙一動ごとに手洗いすることが大事です。

微生物の大きさは、我々が一般的にしているマスクは大体細菌とかウイルスが通ってしまっているんですが、水分が含まれていると穴を通れない。水分が乾燥して飛沫核になると穴を通って感染する。だから一般的なサージカルマスクは飛沫感染は防げます。布マスクでも大抵は飛沫は大丈夫です。

正しいマスクの着用は標準予防策です。

鼻出し、顎かけ、前面に触れる、腕にかけるは駄目です。

最後に、先ほどの感染対策の心構えをもう一度出しますが、以上を守ってもう少し頑張っていきたいと思えます。

ご静聴ありがとうございました。

（講演日：令和2年8月20日）

# 「歌集 青葉かがやく」(根岸 章著) を読んで

山本康正

根岸章様の「青葉かがやく」を川西健登先生にお送り頂き、何度も読ませていただきました。

時代や医学の進歩のずれのはざままで、保養園という大変厳しく限界づけられる環境に身を置かざるを得ない宿命を受け止められ、歌を詠むことで内面を表現してこられた根岸さんの思いに、胸が締め付けられる思いとともに、心の底が洗われてゆくのを感しました。

保養園の内と外が厳しくコントラスト付けされ、外にあっては、お母様、お兄さん、妹さんなど肉親への思いが愛惜をもって歌いこまれ、内にあるのは、療友を温かくみつめられる眼差しがあり、厳しい限界の中で作歌をとおしてご自身の精神を高められてゆく様に深い癒やしを感じさせられました。特に妹さんに関して、時の流れとともに環境が変わってゆかれる様を、思いやり、懸念し、全面的に受け止め

ておられる姿にも感動します。また、奥様には、リアルな目で見つめながら長い年月を通して静かな愛情をあらわされています。寒冷の地に、悲しみを帯びながらも魂の浄化を感じさせる盲導鈴が透明に響いており、美しい絵本をめぐっていくようなときめきがありました。

何よりも作者のご人格が素晴らしいことに尽きるのかもしれませんが、不合理な命運に遭遇される中で徹底した人間の限界、すなわち、『外灯のあかりのどく範囲』できらめく雪のように輝いてゆくとし、希望を見出されてゆく姿勢に勇気を与えられます。「夜の坂道の向こうに輝く星」を見出し、「夕茜雲に果樹園の剪定」のリズムに生の喜びを覚え、「秋の夜長にすだく虫の声の祈り」に励まされてゆかれる様は、さらに大いなる天の祈りに支えられておられるように感じられます。

おこがましいですが、私を感じさせられた、というより心のエネルギーをいただいた点について少し感想文を書かせていただきました。

私の勝手な好みで、①療養所という環境を詠まれた歌、②療養所内の療友を詠まれた歌、③療養所の内や外を超えて普遍的な希望を発信されているような歌、④肉親、とくに妹さんに関して詠まれた歌、⑤奥様の歌、そして⑥盲導鈴、に分類させて頂きました。

### ① 療養所という環境を詠まれた歌

昭和二十七年、「平凡に黄昏るる路歩むとき聖歌が聞こゆる不自由舎のあたり」自由を賛美する聖歌が不自由舎のあたりから聞こえるという、レトリックの戯れが若い作者の心の叫びを表し、「学業を断たれし過去に触れゆきて机によれば迫る夕闇」若者の無念が極まっています。

昭和二十八年、「吹雪く日は訪ひ来る人もあらずに部屋にやさしき鉄瓶の音」鉄瓶の音はしばしば詠われ、ふつふつとたぎる鉄瓶の音は心の奥のもつれ

を解きほぐしてゆくかのようです。「まとまらぬ思索に疲るる夜のほども煮え立つ鉄瓶の音をこのみつ」眠れない夜にも鉄瓶の音が神経の高ぶりを治めています。「山療に猛ける吹雪よ癩癒ゆる希ひ秘めつつ春を待ちをり」北国の吹雪の猛るさまは私には容易には想像できないものと思いますが、夜が最も暗い時が夜明けに近いともいわれます。じっと待つて、春を信じて。

昭和二十九年、「癩園に埋れて過ぐす一生かと茜うすらぐ夕雲を見ぬ」若き作者に果てのない療養所生活はいかに厳しいものであったでしょう。オレンジ色の夕焼雲に祈りを込めて。

昭和三十四年、「薪切機の轟音やみし寮間の天はしづかに夕映えてをり」轟音が止んだ直後のシーンとした新しく創造されたような空間、燃えるような夕暮れに天に届くような静寂が満ちています。

昭和三十六年、「袋掛けを急ぐ友等の声のして丘の果樹園の青葉かがやく」つらい療養生活にも心沸き立つ春がやってきた、みんなで立派な果樹を育てよう。「退所せし友等は如何に過ごしむ朝より荒れて吹雪夜に入る」作者の心の中には療養所の内と外



のコントラストが基調音となつていくように感じられます。退所すれば目出たいかもしれないが、吹雪の夜、むしろ退所した友を心配しておられる心優しさがにじみ出ています。療養所内の方が暖かいのではないか？

昭和四十四年、「徐々徐々に熱気おびつつ灯の下に討論続けり……議論も佳境にエネルギー全面展開、心の真実を語る議論は熱い！」『徐々徐々に』とは並々ならぬ熱量の表現。

昭和五十四年、「ダンプカー通り過ぎしを確かめて待避の盲等を道にみちびく」ダンプカーが通り過ぎた後を確認した道は、自分たちが引き寄せたままさらな世界。そこに目の不自由な人々を保護しながら誘導する、作者の愛情あふれるまなざしが生き生きと。「消灯の刻知らせつつ放送は月の清きをやさしく伝ふる」一日の終わりの放送は何となく心安らぐもの、みんな自分の家へ、自分の部屋へ帰れる。澄み切った月は今晚も夜通しみんなを見守つてくれる。「夢持ちて放ちし稚魚の幾万か人手のなくて養魚場閉づる」無数の稚魚を未来への思いを込めた希望のように養い放つてきた、しかし養魚場を継ぐ人手が

足りない。しかし、今まで放たれた稚魚たちはもうすっかり大魚に。

昭和五十六年、「安らかに今はあるべし逝きし友の部屋に掛けあるカレンダーはづす」カレンダーは未来、それを外さざるを得ない、思いを飲み込んで死がすべてではなく祈りつつ。

平成二年、「療園の日々の営み見おろして丘に落葉松の緑増しきぬ」世間とのバリアーの中で長い日々が過ぎたが、じつと見てくれている松があった、それが春から初夏へのちを溢れさせている。

平成七年、「お得意様のみよとナースは手造りのリボンに結びしチョコを呉れたり」抑えきれぬうれしさが字余りの句となった！「職員の手に成るかまくら青き灯に今宵の広場に浮き立ちて見ゆ」中は暖かな物語がつまつていそうなかまくらを作ってもらえた、青いライトに照らされて幻想的、療養所内のコスモロジ、雪景色が美しい！「防雪林吹き抜け丘を渡りくる吹雪は西より寮舎を覆ひぬ」厳しい吹雪がやってきた、西風か、吹きくる側から雪が積もってゆく、やがて全棟覆われるかも。療養所の中は暖房をしつかり効かそう。

## ② 療養所内の療友を詠まれた歌

しばしば療友を読まれています。とくに、失明など高度の苦難を持たれる病者についての歌も多いと感じます。

昭和二十九年、「病める指断つと外科医に云はれ居る友の背後に雪の散る窓」残酷な治療方針が下され、黙ってうつむく療友を見た。窓の外は雪が舞っている、一緒に耐えている作者がある。

昭和三十四年、「無限なるひかりに対ふ如くにも点字打つときの貌みな緊まる」「指先に希ひ集めて君等うつ点字はしろくひかりの如し」「唇に探りて点字書読みてゆくさびしき鬚りある貌がうつくし」など、視覚を失われておられる人々の真摯な仕草に、神々しい佇まいを見出しておられます。

昭和五十六年、「洗眼の順待つ列に遅れ従く盲ひの君の背の雪払ひ取てやりぬ」雪の中を急いできたが少し遅れた。充分間に合うよ、リラックス！「のみどの管指に押へてカラオケに声出し唄う盲ひたる人が」、平成二年「双掌にてマイクを挟み持ち唄ふ盲ひの人のひたすらなりき」などは少し距離を置いて観察しつつ、懸命な視力障害者の方々の自己表現に

声援を送り、『ひたすらさ』の先には光明があることを信じておられるかのようです。「手遅れの病に手術も叶はねば見守るのみか友の息聞く」安易に慰めをかけることも出来ない、そつと寢息を聞いて傍らに立つのみ。

## ③ 療養所の内や外を超えた普遍的な希望の表現

療養所に一生を限られることはいかに大変なことでしょう。しかし作者は歌作りによって、療養所の内外の壁を超えた普遍的な高みに上って行かれるようです。

昭和二十八年、「はげめよと言はれ来し夜に仰ぎゆく坂のはるかに輝く星あり」つらい境遇を引き受け作歌に精進しようとしたとき、上り坂の向こうに自分だけに向かつて光芒を発する星を見つけた。「濯ぎ終へて並べて掛け乾す縁側に青く満ちくる吹き晴れし空」洗いざらしの洗濯物のむこうに、空の青さが満ち溢れてきた、内面深くからも湧き上がってくる。

昭和三十年、「一筋に生きあゐるものの清しさよ晩夏の山に茅蝸は啼く」この夏も一筋に生きた、茅蝸

がなきはじめそろそろ夏も終わり、短かくとも一生懸命の夏を神様は見えてくたさる、「裸木の影置く舗装路に吹く風の白くさやけし霜月の朝」療養所があられる青森の秋は短いのではないでしょうか？晩秋の朝、無駄をそぎ落としきりつと屹立する肌木、その影がひんやりとした舗装路に長く伸びる。作者の療養所での生活も幾年かが過ぎたことでしよう。身を引き締めて来る冬に備える精神の緊張感が示されているかのようです。

昭和三十六年、「桃林檎梨の裸木の影置きて丘にやすらふ冬の果樹園」果実を実らせ大仕事を終えた樹木の影が丘に柔らかに伸びて、静かな平安に満たされた冬晴れの日。

昭和四十四年、すこし異なる作風で、「休日のみきつらさ云ふ豚飼ひの君等に今日も吹雪は止まず」容易に変わりそうにない若者の厳しい状況を見つめ、現実を描写し切ることで、重荷がほんのわずかくらいでいるように感じます。「外灯のあかりのとどく範圍にてきらめきながら雪の降りつぐ」空から舞ってくる雪が外灯の照らす部分だけきらきらと光っている、人はあかりのとどく範圍内で懸命に生きるだけ

で十分に祝福されているのではないか。

昭和五十四年、「ふくらみて満ちくる潮の如きもの欲りつつ孤りの机に向かう」忍耐に忍耐を重ねて、ついに、どこからともなく大きなうねりが湧いてきた、尽きることはなく溢れくる祝福のように。

平成二年、「外科室の窓より見ゆる白樺のけふの光に幹白く立つ」つらい手術に耐えて、ついに治癒の喜びに至れるように、朝の光に映える真つ白な白樺の肌に願いを込める。

平成十二年、「唐松の芽吹く緑のさやかなり丘の遊歩路に息深く吸ふ」長い療養生活を生き抜いて、何度目かの新緑の季節を迎えた。今年の春はとりわけて平安が満ち溢れているようだ。療養所のすべてに感謝をささげておられるかのよう、無数の思い出をかみしめながら新緑を満喫されての散策です。

#### ④ 肉親、とくに妹さんに関して詠まれた歌

肉親の歌で最も高頻度に登場されるのが妹さんです。妹さんを通して、作者の肉親そして療養所外の世界への想像力が描かれています。母や妻とまた異なっていて、妹というのは男子にとって独特の存在で

す。

昭和三十年、「文断ちて久しき妹よ妻の日を如何過ごしむ秋は深むよ」、療養所外の世界で結婚された妹さんに対する、祝福とともに、少し広がった距離感から出たさみしさ、そして、幸せを祈る兄の気持ちが表示されています。

昭和三十四年、「ドライとも云うなら云へと妹の便りは短し都会に住みゐて」や「何事も割り切り日日を過ぐすとふ動きはげしき街に住む妹」など忙しく街で結婚生活を送っておられる妹さんの短い消息。少し寂しいが、元気でいてくれれば良い。

昭和三十五年、お母さんとともにお見舞いに！「母と妹の待ちゐる事務所へ急ぎつつ秋陽澄む道に胸弾みくる」こみあげてくる懐かしさとうれしさ、「振り返り手をふりあげつつ帰りゆく母よ妹よ秋ひかる道」有難う、もう帰るのか、特別上等な一日、透き通る秋の空を、切なさや愛惜が美しく染め上げています。しかし、「離婚せしかなしみもてる妹に働く力のありてはげます」つらい破局に、兄として精いっぱい背中に手を当てています。

平成七年、「故里の家を守りゐる兄の惚けしと妹

の電話に思ひせつなし」兄弟の消息もさみしく悲しいものにお兄さんは施設に、残酷なほどに時は経ってゆく。

平成十六年、「不況下の都会にひとり妹は細ぼそ守りゐむ小さき美容院」、「妹の日日の過ぎゆき如何ならむ街に自営の小さき店もつ」、小さな美容院、仕事があつてよかつた、一生懸命頑張れ、働いて生きていけば何かにつながる！

### ⑤ 奥様

昭和三十三年、「新雪を溶かす午前の陽はあかく編みつぐ妻の糸玉に映ゆ」降り積もった雪に雪晴れの太陽が注ぎ、妻が編みかけている毛糸玉に美しく反射している、新婚のみずみずしい妻への思いが糸玉への反射光で表現されています。「吾よりも手まめに妻は培ひて次ぎ次ぎ仙人掌の花咲かしゆく」二人でサボテンを育てる、新婚時代のしあわせが歌いこまれていくようです。

昭和三十五年、「棚葡萄の房実数へて云う妻の声いきいきと庭にひびけり」療養所内の作業、収穫の喜びと妻への愛おしさ、充実した結婚生活。

昭和五十四年、「灯の下に妻の剥きゆく柿の皮生き  
ゐる如く渦まきたまる」結婚生活も熟年期を迎えら  
れた？年月にわたる愛情をはぐくんできた、らせん  
状に重なってゆく柿の皮のごとく。「雪の夜に出でゆ  
きしより二十日経し帰らざる飼猫を妻はまた云う」  
言葉少なに二人いる部屋、猫が出て行って二十日、  
この雪の中何処に宿っているのか？

平成七年、「軒下で大根干しゐる妻の背に風に散  
り来し枯れ葉はなれず」秋の日の一日、長年連れ添っ  
た妻がせつせと大根干しをしている、その背中に枯  
れ葉が舞ってきた。私も妻もずいぶん年を取った。  
すぐに離れ落ちない枯れ葉に、二人して老いを正視  
し受け入れようとする優しい覚悟が感じられます。

## ⑥ 盲導鈴

盲導鈴の歌を四首見つけました。これらの悲しみを  
を含みながら澄み切った音は、魂の浄化を感じさせ、  
この歌集の美しい間奏曲となつて聴覚的な慰めを与  
えてくれます。

昭和三十四年、「無限なる闇の中にて盲導鈴道辺  
に澄める韻を放てる」。昭和三十五年、「ひかりなき

空にひびきて雪深き園に盲導オルゴールの鳴りやま  
ぬ韻」。昭和三十六年、「青空にひびきの吸はれゆく  
如く雪晴れし辻に盲導鈴鳴る」。平成七年、「春日ざし  
こぼるる園の十字路に音いろやさしく盲導鈴立つ」。

根岸章様、本当にありがとうございました。

## 山本康正

1975年 京都府立医科大学卒

1978年〜2014年 京都第二赤十字病院

脳神経内科

2014年〜現在 京都桂病院 脳神経内科

1979年〜1989年 京都大学 神経内科

研究生 京都大学医学博士

1975年 ポストン、Taftsu University,

Neurology, Dr. L. R. Caplan 留学

専門領域

臨床神経学、脳卒中

俳句・川柳

木村伯龍

俳句

宴なき 桜は静かに 葉桜に

露にがし 句の味です はずされず

新茶です 香り期待し 急須見る

差し入れの おもてなしです 百合一輪

衣替え 作務衣に着替えて 治療場へ

川柳

老園の 声が届かぬ 昨日今日

むなしさや 言ってる後に 友はなく

筋通せ 言ってるつもりの 壁厚く

後始末 したくはないが 意地っぱり

駄目もとで 言いたい心腹 自己主張

## ◆ 社会交流会館だより ◆

### 山のあなたの炭焼山

社会交流会館 学芸員 澤田大介

みなさん、こんにちわ！

昨年の暖冬とは打って変わり、今年は十月からすでに寒い日が続きますね。十一月の初旬から雪が降り始めて、部屋の中から外を眺めるだけでも、凍えるような気持ちになります。

私に限ったことかもしれませんが、外が寒くなると、それに比例するように部屋の温度も下がるわけですが、その室温の低下は、案外、お風呂上がりのような、温かい浴室から寒い更衣室へうつる時ではなくて、冷蔵庫から野菜を取り出すような、寒い部屋からさらに寒い冷蔵庫に手を入れる、その時に感じたりします。と言いますのも、私が使っている冷蔵庫はあまり性能が良いものとは言えず、冷蔵庫内の温度がとかく、室温の影響を受けやすいのです。もちろん、冷蔵庫には温度調節のツマミがありますので、適宜それで温度の調

整をおこなえばよいのですが、うっかり、真夏の設定にしたまま冬を迎えてしまいますと、夕飯の鍋の具材にしようと思っていた人参が、雪室人参になっていたりするわけです。そういうのを見ますと、「寒くなってきたんだなあ」と、しみじみと感じます。

さて、このように寒い東北の冬ですが、この寒い冬と言えど何でしょう。そうですね『炭』ですね。

かの有名な『枕草子』の冒頭でも清少納言は、「冬はつとめて。」と記した後、「霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もてわたるも、いとつきづきし。」と書いております。

したがって、今回に限っては『冬』と言えば『炭』、ということにいたしました。かつて松丘保養園でおこなわれていました、『炭焼き』について書いてみようと思います。

本題の前に、木炭の作り方はご存じでしょうか？  
木炭そのものはバーベキューなど、燃料としてよく使いますからご存じだと思えますが、木炭をどうやって作るかと言われると、ピンとこないのではないのでしょうか。

木炭は木材を酸素の少ないところで焼くと作れます。「酸素が少ない」ことが大切でして、たき火のように焼いてしまつては、木材は木炭にはならず灰になつてしまいます。これを酸素の少ないところ、例えば、窯の中やアルミホイルで包むなどをしてから焼くと、木材は灰にならずに木炭になります。このような作業を、もつと大がかりにおこなうのが炭焼きです。

後でも書きますが、松丘では山で炭焼きをしています。山で炭焼きをする場合は、現地の石と粘土で炭窯を築いて炭焼きをおこなうのが一般的だそうで、日本全国にもこのような炭焼き窯があります。この炭窯を一から築くとなると、少なくとも三日、さらに炭を焼くのに一週間ほどかかるそうです。これに、山での木材の調達や、木炭の運搬も考えたと、炭焼きというのは、結構な肉体労働だと想像できると思います。

それでは早速、本題に入ろうと思います。

松丘で炭焼きをしていた時期ですが、これは戦中から戦後まもなくまでの短い間だったようです。戦時中のため資料が少なく、『甲田の裾』も昭和十九年六月号から同二十二年三月号までの間、休刊しています）、具体的にいつから始まつたのかはわかりません。ただ、炭焼きが終わるのはどうやら、昭和二十二年頃のようにです。昭和二十二年というのは、ララ物資（注：戦後に米国で結成した組織(LARA)が貧困救済の為に日本を含むアジア諸国へ送った食糧や衣料)が松丘に届く頃です。そのためこの炭焼きというのは、「患者作業」という側面もあると思います。それ以上に、戦中戦後の逼迫した物不足が原因だったようです。この炭焼きの苦労については、当時の入園者に限らず、職員も記念誌に綴っています。

次は、『甲田の裾』や『記念誌』などから引用して、松丘の炭焼きを具体的に見てみようと思います。

昭和十五年から『甲田の裾』を見ていきますと、同十五年、同十六年は、川柳の題詠に「炭」や「炭団」が取り上げられる事があつても、「炭焼き」について詠った作品というのはありません。

しかし、昭和十七年末に次の短歌が掲載されます。



菊地まさる

炭運ぶ娘等へ山路の霜柱

鎌田勝人

炭焼ける吾が兄なれば保養園に居てむりな願も言はれ

(同十八年十二月)

ざれけり

炭を焼く事にも慣れた太い指

小野みつる

(『甲田の裾』同十七年十二月号)

小松月舟

※以降、『甲田の裾』の引用は発行年月のみ記す。

木炭となる炭竈の木の燃えあげしかむらさき色の煙ほ  
のたつ

(同十九年一月)

松ヶ丘散花

短歌を引用しておいて申し訳ないのですが、文語体を正しく読む自信がないので解説は避けますが、この短歌は保養園で炭を焼く必要(燃料不足)を間接的に詠ったものだと思います。この短歌の掲載に前後して、中條資俊園長が松丘で木練炭を作っていることを書いています(同十七年五月号)。

湯のたぎる音を聞きつゝ深山の炭焼く人を偲びるにけり

(同十九年四月)

そして、昭和十八年から休刊する同十九年にかけて、「炭焼き」に関する川柳や短歌が出てきます。

あくまでも文芸作品なので、どこまでが作者の実体験かはわかりませんが、作品の中には、山で炭焼きをする人や、その木炭を松丘まで運び出す女性を労っているものがいくつかあります。

炭背負った娘に追ひすがる蝶一つ 小野みつる

(同十八年八月号)

炭を焼く傍で鈴虫啼いてくれ

佐藤初穂

(同十八年十月号)

炭を焼く煙静かな秋の山

柴田逸民

炭小屋を包んで紅葉陽に映える

小野みつる

松丘の七十周年誌である『秘境を開く』には、もう少し具体的に書かれており、入園者と職員あわせて5名が書いています。そのうち、2名の文章を引用します。「中でも思い出されるのは、日常欠かすことの出来ない木炭が、木炭庫に一俵もなくなつたことです。そこ

で、選りぬかれた十人の仲間と八キロも離れた山奥に入り、半年余の間木炭製造に従事しました。私もその中の一人です。」(入園者…北原豊)

「昭和二十一年六月保養園の用度係として復職したときから、昭和二十二年までの厭な思い出です。(中略)冬期間の暖をとる薪、木炭は配給では間に合わず、職員、入園者共同で払い下げになった山に入り、薪の運搬、木炭焼等で一時しのぎをし」(元職員…三上幸雄)

松丘保養園の記録となると、『昭和二十一年度国立療養所年報』に少しだけ記されています。

冒頭の「一、事業概要」には、「極度の燃料不足の為職員及患者の一部は薪伐採或は製炭に従事した。」とあります。「燃料入手消費の状況」の木炭の項目では(本来であれば表なのですが)、九月〜十二月にかけて木炭を二、六一六俵生産したことが記されています。さらに備考には「冬越冬不安に付製炭実施なしたるため辛うじて越冬せり」とあります。

見てきた内容を強引にまとめますと、松丘の炭焼き

は、戦中戦後の物不足を受け、昭和十八年頃から同二十二年頃にかけて、入園者と職員とで療養所から八キロ程離れた山でしていた、となります。

食べ物も十分でない時代に、このような苦労があったと考えると、エアコンや電気ストーブがある現代はいかに豊かか、考えさせられます。

そして今回は、なんと、「尻切れトンボ」では終わりません(前回の「牡丹」は頓挫中ですが)。今回は「To be Continued」です! と言いますのも、松丘の炭焼き山が何処だったか、少し手掛かりがあるので、もう少し調べてみようと思います。キーワードは、「十曲がり」と「K集落」です。それでは!

#### 参考文献

恩方一村逸品研究所編(二〇一九)『炭やき教本 簡単窯から本格窯まで』杉浦銀治・広若剛・高橋泰子監修、創森社。

岸本定吉・杉浦銀治(二〇二二)『大人の週末遊び日曜炭焼き師入門』総合科学出版。

炭活用研究所編著『図解よくわかる 炭の力』

(二〇一四) 杉浦銀治監修、日刊工業新聞社。

【おまけ】

冒頭で木炭の作り方を書きましたが、これは台所で簡単に実験できます。私も挑戦してみました！

一、まず材料の準備です。

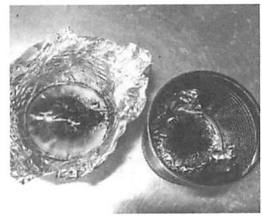
アルミホイル、空き缶、つまようじ、炭にするもの（今回は栗とりんごです）

二、「炭にするもの」を空き缶に入れ、アルミホイルでフタをして、フタに小さく穴をあけます。

三、準備ができたなら、三十分ほど空き缶を火にかけます。少しすると水蒸気や気体が出てきます。

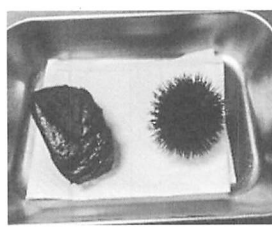
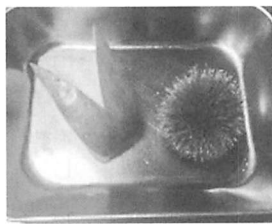


四、気体が少なくなったら、火を止めて冷まします。冷めたら取り出して、完成です！



↑空き缶を開けてすぐの栗の状態です。フタに、水滴がついています。

←りんごと栗のビフォーアフター。栗はもうウニですね。りんごはシワシワですが、チャームポイントにはちゃんと残りました！



※実験は次のHPを参考にしました。私は色々手順を省いたので、こちらを参考にしてください！

日本ガイシ「くだものだって『炭』になる！」  
佐巻健男監修、<https://site.ngk.co.jp/lab/no28/>

(二〇二〇年十一月十日アクセス)

## ニューフェイス紹介（令和2年1月）



館田 桜（たてだ さくら）

栄養班（調理師）

1月から栄養班に勤務しています。

まだまだ至らない点はたくさんあると思いますが、一生懸命頑張ります。これからもご指導よろしく願います。



八木ひさ子（やぎ ひさこ）

中央センター2階（看護助手）

4月から看護助手として中央センター2階で勤務しています。まだまだ不慣れなことばかりですが、皆様に色々なことを教えて頂きながら一生懸命勤めていきたいと思います。よろしく願います。



木下 直実（きのした なおみ）

福祉室（事務助手）

4月13日より福祉室で事務補助として勤務となりました。まだまだ分からない事ばかりですが、早期にお役に立てるよう全力で取り組んで参りますので、皆様ご指導よろしく願います。

### 人事異動

#### 【退職】

作業手 豊川 広明（庶務課）

（令和2年6月30日付）

#### 【退職】

副臨床検査技師長 工藤 智木

（八戸病院 臨床検査技師長へ）

（令和2年9月30日付）

#### 【採用】

副臨床検査技師長 佐藤 恵美子

（八戸病院 副臨床検査技師長より）

（令和2年10月1日付）

自治会日誌

○印 園関係

5月中

7日 保健科とコーヒー喫茶について話し合い

8日 第10回執行委員会

28日 病棟陰圧室の見学と説明（執行委員2名）

6月中

3日 企画運営会議

10日 榎鹿内組 西田彰専務取締役外1名来訪

（土地借用について）

12日 第11回執行委員会

17日 ストープ取り外し

22日 ○らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼

の日

23日 ○思い出食堂（宅配）

24日 企画運営会議

7月中

8日 企画運営会議

17日 第12回執行委員会

27日 第1四半期自治会会計業務監査

29日 第13回執行委員会

8月中

5日 青森県健康福祉部保健衛生課 磯島隆課長外

3名 挨拶に来訪

6日 企画運営会議

7日 第14回執行委員会

〃 ○ミカエル教会墓参

13日 ○納骨堂開放（16日）

19日 「松桜会」理事会及び評議員会

20日 ○感染対策研修講演会

講師・弘前大学医学部臨床検査医学講座

准教授 感染制御センター 齊藤紀先生

28日 新城中学校より生徒制作の「ミニ金魚ねぶた」

寄贈

9月中

2日 選挙管理委員会開催

3日 企画運営会議

4日 第15回執行委員会

〃 自治会選挙 投票並びに開票

6日 自治会選挙管理委員会解散

11日 青森地方裁判所に於いて司法修習生に佐藤副  
会長が講話

18日 〇弥広神社例祭

19日 敬老会中止により、各センターに於いて年祝  
いの記念品を贈呈

23日 〇ストーブ取付（一般寮・教会関係）

25日（二財）双仁会厚生看護専門学校に於いて、  
看護学科3年生に佐藤副会長が講話

## 10月中

7日 〇人事院給与簿監査

8日 〇中1センターお買い物ツアー

19日 〇職員健康診断

23日 〇献血

27日 〇職員健康診断

28日 〇青森市長選挙・青森市議会議員補欠選挙不在  
者投票

29日 〇らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼  
の日式典Web配信

〇医療安全研修（AED）

## 編集後記

◇8月20日開催された弘前大学医学部感染制御センターの齋藤紀先先生の講演は的中し、この秋青森県はコロナウイルス感染症の第三波の直撃を受けました。今改めて先生の講演録を読み返すと、私達が自分の身を守るためには、「手洗い」「マスク」「三密を避ける」と、他にもありますが、まずは手洗いを徹底することと訴えています。マスクしているから大丈夫ではなく、とにかく手洗い、必ず手洗いを皆さんも習慣にしてこの難局を乗り切り、来年こそ満開の桜を笑顔で楽しみたいものです。

（石田）



アマビエ

江戸時代、現在の熊本県に現れた疫病から人を守る力を持つとされる妖怪である。コロナ禍の今、「疫病退散」の守り神として注目されている。

# 園内の出来事

新城中学校 金魚ねぶた贈呈 8月28日



新城中学校生徒手作りの金魚ねぶた14個が葛西雅美先生より自治会 佐藤勝氏へ手渡されました。

敬老会（年祝いの会）9月15日



今年の敬老会は、新型コロナウイルス感染症予防対策の為、各センターで『年祝いの会』として開催されました。

らい予防法による被害者の名誉回復および追悼の日 Web 配信 10月29日



毎年6月28日に行われる『追悼の日式典』が延期され生中継でWeb配信され、多目的ホールで4名の入園者がWeb配信に参加しました。

# 国立療養所松丘保養園要覧

松丘保養園は国立のハンセン病専門の療養所で、創立してから今年で111年の歴史があり、ハンセン病患者の医療と福祉を事業としております。

## 所在地

青森市大字石江字平山十九

園 長 横 山 慎

保有敷地 二三七、九六六平方メートル

(七二、一一〇坪)

建て面積 二二三、八二二平方メートル

(七、二二六坪)

延べ面積 二九、四七三平方メートル

(八、九三一坪)

# 交通案内

## □電車の便

1. 東北新幹線・新青森駅下車  
(車で約3分)

2. 奥羽本線津軽新城駅下車  
(車で約5分)

## □バスの便

1. 青森市営バス西部営業所行  
2. 弘南バス浪岡・五所川原・黒石  
行き 共に松丘保養園前下車

## □航空機の便

青森空港より(車で約30分)

## □高速自動車道の便

青森ICより(車で約5分)

□なお保養園に隣接して桜の名所三内霊園(1km)と国の特別史蹟指定の三内丸山縄文遺跡や県立美術館(2km)等があります。

## 発行所

一般財団法人 松丘保養園松桜会

## 所在地

〒〇三八―〇〇〇三

青森市大字石江字平山十九番地

電話(017)(788) 〇一四五・〇一四六

発行人 横 山 慎

編集人 甲田の裾編集委員会

## 印刷所

青森市本町二丁目十一―十六

青森オフセット印刷株式会社

電話(017)(775) 一四三一番